

〔皮膚科〕

研修の特徴と内容

【特徴】

患者と接した時に初めに観察できる臓器は皮膚である。血液検査や画像診断が発達した現在においては、皮膚から得られる情報はその重要性を忘れられがちであるが、皮膚症状から診断可能な内臓疾患も多く、プライマリケアに重点をおいた臨床研修では重要な研修分野である。また疾患の種類・患者数の多い点からも皮膚科は初期研修において習得すべき領域と考えられる。

【内容】

① 一般目標（G I O）

一般臨床医として皮膚および可視粘膜に表れる症状を適切に判断して、その患者の診断治療に速やかに対応できる皮膚科学的な知識、診断力、考え方と技能を身につける。

② 行動目標（S B O）

1. 実際に患者に接して、皮膚科診察に特有の配慮・接遇を知る。
2. 発疹学を学び、原発疹・続発疹の臨床像を正しく表現できるようになる。
3. 基本的な皮膚科疾患(湿疹系疾患・アレルギー性疾患・感染症など)の臨床像を把握し診断できるようになる。
4. 基本的な検査法(皮膚生検・真菌検査・パッチテストなど)を実施できるようになる。
5. 皮膚の病理組織の基本を学び、皮疹を組織学側面からも理解できるよう努力する。
6. 皮膚科治療で基本になるステロイド軟膏の使用法、副作用などを学び、実際に使用する。
7. 皮膚疾患の自然経過を学ぶ—特別な治療を行わなくてもスキンケア・生活指導などで良くなってくることを学ぶ。
8. 熱傷、皮膚潰瘍などの消毒、外用処置を指導医の指導を受けて行なう。
9. 紫外線療法・凍結療法・鶏眼処置などを見学して多様な皮膚科治療学を学ぶ。
10. 患者とその家族に対し、疾患とその治療法について、わかりやすい言葉で説明できるように努力をする。

③ 研修内容（方略）（L S）

1. 外来診療

- 1) 外来診察室で指導医の診療を見学し、病歴聴取・カルテ記載・症状説明・接遇を学ぶ。
- 2) 外来で実際に病歴聴取して予診を行なう。指導医の指導を得て診断・治療を行なう。
- 3) 皮膚生検・真菌検鏡・パッチテスト、凍結療法などを行ない、結果判定する。

2. 病棟診療

- 1) 指導医の下で担当医として、病歴聴取・診察を行ない、カルテ記載を行なう。
- 2) 指導医のもとで皮膚科治療・処置を学習する。
- 3) 回診・学習会など

外来が始まるまでに入院患者を回診する。

④ 教育に関する行事

- | | | |
|---|--------|-------|
| 火 | 13:30～ | 回診 |
| 火 | 16:30～ | 術前検討会 |
| 金 | 17:00～ | 症例検討会 |

⑤ 研修評価（EV）

1. 自己評価

EPOCを入力する。

2. 指導医による評価

EPOCへの入力による評価を行う。

3. 看護師による評価

EPOCを用いて、看護師からの評価を行う。

4. 研修内容の評価

研修医による研修科の評価をEPOCを用いて行う。

指導医等

主任教授：山西 清文 准教授：夏秋 優 講師：伊藤 孝明 講師：今井 康友
講師：中川 登 助教：山本 雅章 助教：永井 諒

研修実施責任者

講師：中川 登